

2020年9月7日～5日

敵基地攻撃、自民党総裁選

長射程ミサイル、22年取得 離島防衛、「敵基地攻撃」転用も—F35搭載・防衛省

時事通信 2020年09月07日07時08分

防衛力整備で導入予定・検討中の長射程ミサイル

〔射程、開発状況と用途、製造企業の順〕

JSM	約500km
	開発完了 対艦・対地用。F35Aに搭載 ノルウェー コングスベルグ社

LRASM	約900km
	開発中 対艦・対地用。F15に搭載検討 米ロッキード・マーチン社

JASSM	約900km
	生産中 対地用。F15に搭載検討 米ロッキード・マーチン社

(防衛省資料や各社展示物・HPなどから)



離島防衛などで敵の脅威圏外からの対処を可能にする「スタンド・オフ・ミサイル」と位置付ける射程約500キロのミサイルを、防衛省が2022年3月までに取得することが分かった。中期防衛力整備計画（19～23年度）に基づくもので、自衛隊の現有火力では最も長射程になるとみられる。航空自衛隊の最新鋭ステルス戦闘機F35Aに搭載される。

政府は陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備計画断念を機に、弾道ミサイルによる攻撃を阻止するために、他国の領域を標的にする「敵基地攻撃能力」の保有を含めた抑止力の議論を本格化させている。同能力保有に踏み切れば、相手国内の固定レーダーサイトや、ミサイル関連施設をたたく兵器として、転用される可能性もある。

防衛省などによると、取得するのは、ノルウェー製の対地・対艦ミサイル「JSM」。開発が完了し、22年3月中旬が納期となっている。JSMはF35の胴体内部に搭載でき、レーダーに探知されにくいF35のステルス性を生かした対艦・対地攻撃が可能となる。

空自が保有するF15戦闘機のうち近代化する機体についても、米ロッキード・マーチン社製の射程約900キロのミサイル「LRASM」や「JASSM」の搭載が検討されている。米軍は戦略爆撃機を使いJASSMの発射試験を実施。LR

ASMはイージス艦発射用にも開発が進んでいる。

安倍政権は射程上、敵基地攻撃にも使えるスタンド・オフ・ミサイルの保有について、憲法9条に基づく専守防衛との整合性について議論を尽くさずに導入を決定した。

千歳（北海道）、三沢（青森県）、小松（石川県）、築城（福岡県）、那覇基地（沖縄県）などから発進した空自戦闘機が日本海や東シナ海からスタンド・オフ・ミサイルを発射すれば、北朝鮮や中国、ロシア沿岸部などに到達する。

憲法上許される自衛のための必要最小限度のミサイルは、どこまで保有できるのか。次期政権はミサイルの長射程化に向けた防衛力整備について、国民への説明責任を果たすことが求められる。

Business Journal 2020.09.05 19:00

中国、尖閣諸島を事実上支配…「敵基地攻撃能力」の保有、日本の安全保障に不可欠

文＝白川司／ジャーナリスト、翻訳家

「Getty Images」より

中国人民解放軍が8月26日、内陸の青海省と沿岸の浙江省のミサイル基地から南シナ海に向けて、4発の弾道ミサイルを発射した。

中国共産党の軍隊である人民解放軍は、5つの「戦区」に分かれている。そのうち、浙江省は東部戦区、青海省は西部戦区に属している。南シナ海・東シナ海侵略自体は、広東省広州市に司令部がある南部戦区が主に受け持っている。

したがって、このミサイル攻撃は戦区をまたいで総合的に攻撃を仕掛けたものになる。対中南シナ海防衛にとって、この弾道ミサイル発射の意味は重要である。

浙江省から発射された「DF21D」は、「空母キラー」と呼ばれる射程500キロの対艦弾道ミサイルで、地上のミサイル基地から戦艦を攻撃するミサイルである。一方、青海省から発射された「DF26」は別名“グアムキラー”と呼ばれる射程4000キロの中距離弾道ミサイルである。これは主にグアムにある米軍基地を狙い撃ちするために配備されていると考えられている。

つまり、この示威的なミサイル発射は、南シナ海にいる米軍艦隊を浙江省から狙い撃ちすると同時に、青海省からの中距離ミサイルでグアム基地を破壊して、南シナ海の空母打撃軍を不能に陥らせるということを示唆している。わざわざ内陸の青海省から弾道ミサイルを撃っていることに、人民解放軍の不気味な覚悟を感じてしまう。

グアムキラーについては、レーダーに映りにくいステルス性がある上に、短時間で発射されるためにアメリカ軍側に有効な対抗策がないといわれている。中国の人工島がある南シナ海のほか、台湾や尖閣諸島において、ミサイル攻撃に関しては人民解放軍が米軍より圧倒的に有利に展開していると考えざるを得ない。

尖閣諸島も風前の灯

尖閣諸島周辺に中国の漁船が侵入するのは、かつては月に

数回程度だったが、船が大型化して高波でも侵入できるようになると頻度が増えて、今や火器を備える中国海警局（日本の海上保安庁にあたる）の船が毎日、侵入している状態である。

現状は「日本の領海に中国船が侵入している」ではなく、「中国の制海域に日本の領土がある状態」に近いだろう。

しかも、中国海警局は2018年に、国務院（日本の内閣にあたる）から人民解放軍の下部組織へと配置換えされている。つまり、対外的には海警局のままであるが、実質的には軍の船であると考えなければならない。

現在は中国の海警局と日本の海上保安庁が対立しているが、あたかも小型戦艦と巡視船がにらみ合うような非対称な対立である。もちろん、日本の海上保安庁側が圧倒的に不利だ。

さらに、現在は尖閣諸島周辺を狙ったミサイルを中国側は沿岸に配備し、海警船に戦闘機が支援するかたちで連動して飛んでおり、船と飛行機とミサイルという総合的な戦略を進めている。現況だけを見ると、日本側が圧倒的に不利であると言わざるを得ない。

ただし、日本側も対策は打っている。4月1日に沖縄県警が「国境離島警備隊」を配備し、日本も人民解放軍の尖閣諸島への上陸阻止に動いている。国境離島警備隊は151人態勢で、大型ヘリも所有して、自動小銃やサブマシンガンなども装備している本格的な武装警察部隊である。ほかの都道府県警から集めるほか、おそらくSAT（特殊部隊）からも派遣されているのではないかと考えられる。救護隊も備えているので、上陸阻止には火器を使い、怪我人をただちに救護することを想定していると考えられる。万全とはいえないものの、日本側も打てる手は打とうとしている。

ここまで聞くと、「なぜ海上自衛隊を配備しないのか」という疑問が湧いてくる向きもあるだろう。なにしろ上記のように尖閣諸島周辺を脅かしているのは、表向きは「中国海警局の船」であるが、現実には人民解放軍の戦艦である。当然のこと、それに対抗するには海上自衛隊が戦艦を出すべきだろうというのは、当然の主張だろう。

だが、日本は「尖閣諸島に領土問題は存在しない」という立場をとっており、このことは現代のところ広く認められている。もし尖閣諸島防衛に自衛隊を出せば、「領土問題がある」と認めたことにもなりかねず、紛争地域に指定される可能性がゼロとはいえないのである。

そうなれば、対立の末に「喧嘩両成敗」で尖閣諸島の一部が中国領と認められる恐れもある。もしかしたら人民解放軍側は、日本が海上自衛隊を出すのを待って、紛争地域へと一気に格上げしようとしているのかもしれない。

そのため、少なくとも当面は「偽装漁民の上陸阻止」に絞って防衛していくしかないだろう。

米軍の安全保障体制の変化

アメリカのエスパー国防長官は、5月4日のシンクタンクにおける講演で、DFE（Dynamic Force Employment「動的戦力運用」）の必要性和効果の高さを訴えた。

DFEは、これまでの基地中心で固定化された部隊配備から、

相手が予想できないように神出鬼没に部隊を運用することを指している。即応性を重視して配備を固定化せず、同盟国と連携しながら相手の裏をかいて攻撃するという考え方だ。平たく言うと、基地中心の部隊を、本土からの運用中心に変えることである。

米軍は4月に、グアム基地に配備していた戦略爆撃機をアメリカ本土から展開するかたちに変更しており、DFE体制はすでに進んでいる。

2001年に同時多発テロ（911テロ）が起こったことで、アメリカ本土を守れていないことが露呈したことで、本土防衛もひとつの課題になっているうえに、世界に散らばる米軍基地の負担も重くのしかかっている。

「アメリカ・ファースト」を掲げるトランプ大統領の登場で、米軍基地の縮小・撤退が進められようとしており、さらに新型コロナウイルス感染拡大で空母が十全に運用しにくい状況になっている。それらを補うものとして採用されたのがDFEである。

これは日本の安全保障にとって好ましいことではない。米軍基地が朝鮮半島から撤退すれば、北朝鮮のみならず朝鮮半島から中国への牽制ができなくなる。さらに沖縄基地まで撤退されると、人民解放軍にとっては「尖閣に上陸すると沖縄から即座に米軍が出てきて全面対決になる」という具体的な抑止力が大幅に低下してしまう。

いかにエスパー国防長官にDFEの有効性を説かれようと、米軍基地の有無は日本の安全保障にとって重大な問題であることに変わりはない。私たちは尖閣、そして沖縄が中国の手に落ちないためにも、在日米軍基地をしっかりと守っていかなければならない。

日本がやらなければならないこと

人民解放軍が露骨に尖閣諸島を狙っているこの危機に際して、日本がやらなければならないことは、次の3つに集約されると考える。

- (1) 米軍と自衛隊の連携強化
- (2) ミサイル防衛の強化
- (3) 敵基地攻撃能力の保有

中国の軍事的侵略に際しては、(1) すみやかな米軍との連携で対抗するしかない。そのためには、定期的な合同演習が重要であることは言うまでもない。

また、(2) のミサイル防衛は、イージス艦による弾道ミサイル防衛のほか、陸上に配備するイージスアショアやTHAADの配備が必要である。イージスアショアは6月に配備が中止されたが、それならばイージスアショアの配備方法を変える、廉価版のイージスアショア、THAADなど、ミサイル防衛の強化については引き続き検討すべきである。

現在、安全保障において議論となっているのが、(3) の敵基地攻撃能力である。敵基地攻撃の目的は、(2) のミサイル防衛である。ところが最近、リベラルメディアによって「相手がミサイルを撃つ前に撃つのなら、先制攻撃と同じで憲法違反だ」という不適切な議論を展開されている。

敵基地攻撃は、相手がミサイル攻撃することを察知したときにその基地に配備されているミサイルを破壊するために行われ、先制攻撃ではなく「予防攻撃」である。弾道ミサイルが日本に着弾すれば（特に核や細菌が搭載されている場合は）、大きな被害が出る。ミサイル迎撃だけではミサイル防衛に限界があるので、日本国民の命を守るためにも敵基地攻撃能力を保有する必要がある。

言うまでもなく、尖閣諸島の防衛強化においても敵基地攻撃能力は有効である。尖閣諸島近海を航行する海上保安庁戦が中国の弾道ミサイルに狙われている以上、それを制することは当然検討すべきである。

しかも、人民解放軍の弾道ミサイルを封じられるのであれば、尖閣諸島を含む日本防衛だけでなく、南シナ海防衛にとってもプラスになる。これは国際貢献の面でも重要だろう。

なお、これらはすべて「北朝鮮のミサイル攻撃に備えて」と枕詞がついているが、日本の最大の仮想敵が中国であるの言うべくもない。ただ、経済的に深い関係もあって、表立って仮想敵だと言えない状態にある。だが「北朝鮮」だけで敵基地攻撃能力保有で国内世論をまとめるのは容易なことではない。今後は「日本を中国から守るには何をすべきか」を表に出して議論すべきだろう。

リベラルマスコミが仕掛ける倫理性を表に出した“議論のための議論”に陥ることを避け、日本人の国土と命を守るためには何をすべきかを議論していくべきだ。

（文＝白川司／ジャーナリスト、翻訳家）

白川司（しらかわ・つかさ） 国際政治評論家・翻訳家。世界情勢からアイドル論まで幅広いフィールドで活躍。著書に『議論の掟』（ワック刊）、翻訳書に『クリエイティブ・シンキング入門』（ディスカヴァー・トゥエンティワン刊）ほか。「月刊WiLL」（ワック）、「経済界」（経済界）などで連載中。メルマガ「マスコミに騙されないための国際政治入門」も好評。

【速報中】菅政権は安倍政権の「相似形」だ 不支持の声 政治タイムライン 自民党総裁選 2020

朝日新聞デジタル 2020年9月7日 11時10分

3氏が争う自民党総裁選。それぞれの主張は。「簡易型」選挙の影響は。

「ポスト安倍」を決める自民党総裁選が動き出しました。野党も合流新党の代表選があります。政治家の発言や動きをタイムラインでお届けします。

7日09:30

「菅政権は安倍政権の相似形」 船田氏が不支持表明

「私は残念ながら菅官房長官を支援することは出来ない。なぜなら菅政権は安倍政権の『相似形』だからである」――。自民党総裁選で竹下派を含む5派閥が菅義偉官房長官を推す展開となる中、竹下派に属する船田元・元経済企画庁長官は7日午前、自らのメールマガジンで「菅氏への不支持」を表明した。

船田氏は「安倍政権はアベノミクスや外交面で評価のある一方、賃金が伸びないこと、格差が拡大したこと、森友・加計

問題や河井問題など、いくつかの負の遺産を背負っている」と指摘。「これらを払拭（ふっしょく）して新しい局面を作らないと、国民の自民党に対する信頼は容易に回復できないと考えている」とつぶつた。

その上で船田氏は「責任ある政治家としては他の誰かを推さなければならないと思っている。しかし現時点ではいずれにも決められず、その材料も出揃（そろ）っていない」とした。

総裁選には菅氏のほか、岸田文雄政調会長と石破茂・元幹事長が立候補表明している。



自民党の船田元・衆院議員

6日14:30

「権力は恐ろしい」 岸田氏は「謙虚さ」強調

自民党総裁選へ出馬表明をしている岸田文雄政調会長は6日、地元・広島市での激励会を台風10号への対応のため欠席したが、パソコンの画面越しにリモートで参加した。長期政権のもとで「官僚の村度（そんたく）」などが問題視されるなか、権力に謙虚に向き合う姿勢を強調した。

岸田氏はあいさつで、広島出身の宮沢喜一元首相の生前の発言を引用。宮沢氏は「権力というのは大変恐ろしいものである。謙虚に権力と向き合わなければならない。権力との関係において、政治家は絶えず謙虚にどうあるべきなのかを考えていかなければいけない」と繰り返していたという。

岸田氏はこの言葉を紹介した上で、「権力に対してどう向き合うか。どのように権力を扱うか。私もこれから新しい時代に向けてしっかりと努力をしていきたい」と述べ、総裁選への支援を呼びかけた。

6日09:55

枝野氏「筋を無視した衆院解散、あり得る」

立憲民主党の枝野幸男代表は6日のNHK討論番組で、衆院解散・総選挙の時期について「今のコロナと経済の状況を考えれば、とても解散をして政治空白を作る状況ではないと思っている。しかし、そうした筋を全く無視し、（自民党が）自分の都合で解散する可能性は十分あると思っている」と指摘。「やはり10月25日投票ということで野党は備えなければならない」との見方を示した。

国民民主党の泉健太政調会長も同番組で「10月25日（投票）は十分あり得る。（立憲と国民の合流新党の）政権構想などは、代表選が終われば早急に取りかかるべきだ」と語った。

6日09:50

枝野氏と泉氏「消費減税」そろって主張

立憲民主党と国民民主党による合流新党の代表選に立候補表明している立憲の枝野幸男代表と国民の泉健太政調会長は6日、NHKの討論番組に出演し、新型コロナウイルス感染拡大を受けた経済対策として、消費税を減税する必要性をそろって訴えた。

枝野氏は「これだけ落ち込んでいる消費の状況を考えたとき、かなり強力に刺激しなければならない。そのための選択肢は一つには消費税の減免」と言及。さらに「所得の低いみなさんに対し、コロナの影響が及んでいる間は所得税を免除する」と語った。

泉氏は「一つは消費減税だ。期間は1年とかではなく、コロナが収束するまでと。インフレ率2%に至るまで、こういった施策を続ける必要もあるのではないかというぐらいに思う」と訴えた。

6日09:45

合流新党は「政権に対峙できるまとまり」枝野氏

立憲民主党と国民民主党による合流新党の代表選(7日告示、10日投開票)は、自民党総裁選と並行して行われる。立候補表明した立憲の枝野幸男代表、国民の泉健太政調会長は6日のNHK討論番組にそろって出演。枝野氏は「政権に対峙(たいじ)できる一つの大きなまとまりを作ることができた」、泉氏は「信頼される野党第1党を目指す」と新党結成の意義を強調した。

代表選をめぐっては、枝野氏は「(政権・与党の)タイトル・ホルダーに対する挑戦者を決める競い合いだ。内向きの代表選ではなくて、広く国民・有権者に『もう一つの選択肢はどうあるべきか』を伝えたい」と指摘。泉氏は「党の改革を強めるため、しっかりと代表選をやりたい。野党の運営を一度、総括をしたい」と語った。

6日09:30

早期解散「誘惑に駆られる」自民総務会長が言及

自民党の鈴木俊一総務会長は6日午前放送のテレビ東京の番組で、早期の衆院解散・総選挙について、「私もそういう誘惑に駆られる一人だ。新内閣の信を問うという意味で大義名分も立つ。一つのタイミングだ」との認識を示した。安倍晋三首相の辞任表明後、報道各社の世論調査で内閣、自民の支持率は上昇傾向にあり、党内では選挙に有利との観測が広がっている。

番組は3日に収録された。鈴木氏は「世論調査で7割以上が安倍政権にポジティブな評価をしている。(新総裁は)安倍政治を引き継ぐという方が有力だ」と述べた上で、「新内閣ができて、フレッシュなうちに、評価が高い時に国民の信を問う」との考えに言及した。

一方、「次の政権の性格にもよる。来年もう1回(自民党の)総裁選があるので、その二つが想定できるタイミングではないか」と話し、来秋の衆院解散・総選挙の可能性もあるとの見方を示した。



自民党新執行部の共同会見で、記者の質問に答える鈴木俊一総務会長=2019年9月11日、東京・永田町の党

本部、恵原弘太郎撮影

6日09:30

「国会議員のための自民党ではない」石破氏、派閥を疑問視
自民党総裁選に立候補する石破茂・元幹事長は6日のNHKの番組で、党内の派閥のあり方をめぐり「派閥は政策集団であつて、政策を研鑽(けんさん)する、それを国に生かす。そういう原点に立ち返るべきだ」との認識を示した。党内7派閥のうち5派閥が菅義偉官房長官への支持に回る状況のなか、「派閥政治」に疑問を呈した形だ。

石破氏は「自民党は国民のため、党员のための自民党である。国会議員のための自民党ではない」とも強調した。

岸田文雄政調会長も「派閥は人材育成などメリットもあるとは思う」としつつ、「派閥の弊害という点を国民から指摘されることについては、謙虚に受け止めなければならない」と語った。

石破氏は19人、岸田氏は47人の国会議員が属する派閥をそれぞれ率いている。

6日09:15

森友・加計・桜、岸田氏も石破氏も「説明責任を」

森友・加計学園問題や「桜を見る会」の問題で焦点となった「官僚の付度(そんたく)」「政治への信頼」といった課題をめぐり、岸田文雄政調会長と石破茂・元幹事長は6日のNHK討論番組で、「説明責任が必要」との認識で足並みをそろえた。

岸田氏は「政治の意思決定の方針についてもいま一度、考えなければいけない」として、「トップダウンとボトムアップ、賢く使い分ける政治を目指さないと、国民の信頼にはつながらない」と述べた。

一方、石破氏は「森友にしても加計にしても桜にしても、『そうだね、わかったね』という国民の方は少ない。文書が改ざんされたり破棄されたりして、検証しようがない。それはもう根本的な問題だ」と指摘。「官僚たちは誰を見て仕事をするのだ。見るのは国民。官邸ではない。官僚たちの持っている能力を最大限に引き出す仕組みを確立する」と訴えた。

6日09:10

菅氏は台風10号対応 NHK討論に出演せず

自民党総裁選(8日告示、14日投開票)に立候補を表明している菅義偉官房長官、岸田文雄政調会長、石破茂・元幹事長が出演予定だった6日午前のNHK番組「日曜討論」。番組が始まるころ、菅氏の姿は首相官邸にあった。NHKの司会者は「菅官房長官は台風10号への対応に当たるため、急きょ欠席になりました」と説明した。

結局、岸田氏と石破氏の2人による討論に。岸田氏は「私も今日8時過ぎから(台風10号について)政府の報告を受け、指示を出してきたところだ」、石破氏も「防災省設置は必要だ」と、それぞれ防災に取り組む姿勢を強調した。

岸田氏は番組前、記者団の取材に「河川の水の高さが上がるよりも先に暴風が来るなど、より早い避難が求められる。党としても迅速に対応できるよう今後も警戒を続けていきたい」と話していた。番組の後、政調会長として台風に対応するため、

午後から予定していた地元広島入りと、高松市内での街頭演説は中止にすると発表した。



政府から台風10号への対応方針を聞き取

ったあと、記者の取材に答える岸田文雄政調会長=2020年9月6日午前、自民党本部、西村圭史撮影

5日16:15

石破氏、「愚」の書の前で語る

自民党の石破茂元幹事長が福岡から東京に戻り、銀座のギャラリーで書道展を鑑賞した。記者団から、総裁選に臨む現在の心境を表す作品について問われた。「天命」「風まかせ」などの書も並ぶなか、石破氏が選んだのは「愚」だった。

「愚直ということ。見た目とか、肩書とか、そういうのは『愚』には遠い物だ。自分は本当に『愚』でありつづけられるのか。そういう思いがした」と語った。



「愚」の書の前で感想を述べる自民党の石破茂

元幹事長=2020年9月5日午後4時33分、東京・銀座

5日14:20

岸田氏、選対に谷垣G・遠藤氏 「誠に心強い」

自民党の岸田文雄政調会長の選挙対策本部長に、谷垣グループの代表世話人・遠藤利明元五輪相が就くことが決まった。岸田氏は訪問先の静岡市で、遠藤氏について「この選挙で力を合わせて戦おうと言ってくれた。誠に心強い」と記者団に語った。「より幅広い支持をいただくために、戦いを続けていきたい」と続け、岸田派以外に支持を広げたい考えを示した。

岸田氏は同市で、側近で岸田派事務総長だった望月義夫元環境相（昨年12月に死去）の墓参りをした。



自らの派閥を支えた望月義夫元環境相の

墓前で手を合わせる自民党の岸田文雄政調会長=静岡市

5日13:30

立候補見送りの茂木氏、菅氏を支持

茂木敏充外相（衆院栃木5区）は、宇都宮市で開かれた自民党栃木県連役員会に出席した後、総裁選で菅義偉官房長官を支援する考えを記者団に示した。「政権の継続性が重要。安倍政権を閣僚として支えてきた私は、一番近くで仕事をしてきた菅さんがふさわしいと思う」と語った。

所属する竹下派が菅氏の支持を決定。派内で自身の立候補を求める声があったことについて、「今回は急きよ（の総裁選）ということもあり見送ることになったが、多くの期待が寄せられたことには応えていくべきだと思う」と述べた。ただ、来

年9月の総裁選での立候補については明言しなかった。

5日11:10

石破氏「党員をないがしろ、自民党が大変なことに…」

自民党の石破茂元幹事長はテレビ西日本の番組で、総裁選が正式な党員・党友投票を省く「簡易型」となったことについて『「自民党員なら1票があるんだからね』と（党費）4千円をいただいている」「党員をないがしろにすると、自民党が大変なことになる」と批判した。

朝日新聞の調べでは、46都道府県連が党員・党友を対象に予備選を行う見通し。ただ、地方票は通常型では国会議員票（394票）と同数が割り当てられるのに対し、今回の簡易型では3分の1にあたる141票に圧縮される。

5日08:40

菅氏、外交は「対応できる」

菅義偉官房長官が読売テレビの番組で、立候補を決めた経緯について「私が派閥に相談して決意したのではない。私自身が熟慮して、やらなきゃダメだと決心した」と語った。主要派閥の支持により優位に立つ菅氏には「派閥政治」との批判も出始めており、無派閥候補の立場を強調する狙いがあるようだ。

菅氏はかつて「派閥解消」を訴えるなど、派閥には否定的な立場を取ってきた。

菅氏は番組で、安倍晋三首相の辞任表明を受け、「政治空白を避けなければならないと（考えた）」と立候補は自らの判断だったと説明。その後、各派閥に支持が広がったとの認識を示したうえで、「私にとっては大変力強い限りだ」と語った。

外交が「苦手」との評価があると聞かれ、「苦手というよりも、官房長官は基本的には海外に出る機会はほとんどない」と主張。安倍首相とトランプ米大統領が行った電話協議のうち、出張していたとき以外はすべて同席したとし、「外交の重要事項を決定する時には、私自身も関与している。そこはしっかり対応できると思う」と反論した。

衆院解散については「新しく総理・総裁になった人が判断することだろう」としたうえで、「国民の最優先（事項）はコロナ（対策）で、安心安全な状況をつくってほしいということじゃないか」と語った。

4日17:50

「世論調査のタイミングが影響」岸田氏が「5%」に見解

自民党の岸田文雄政調会長は4日、党総裁選に立候補表明している3人のうち誰が次期首相にふさわしいかを問うた朝日新聞の世論調査で自らが最下位の5%にとどまったことについて、「世論調査のタイミングが大きく影響している」との見方を示した。福岡市内で記者団に語った。

岸田氏は「選挙戦は続く。しっかりと発信を続けていきたい。必ずや影響が出てくると確信し、最後まで発信することが国民の見方を変えることになると信じて努力を続ける」と強調した。

朝日新聞の2、3日の世論調査で「次の首相には誰がふさわしいと思うか」を聞いたところ、菅義偉官房長官が38%で最も多く、石破茂・元幹事長が25%で続いた。

4日16:20

菅氏、昭恵氏の説明機会「考えていません」

菅義偉官房長官は記者会見で、安倍晋三首相の妻昭恵氏が4日、トランプ大統領の妻メラニア氏と電話で協議したと明らかにした。協議について「内閣総理大臣夫人として実施した。総理の公務の遂行の補助として臨んだ」と説明した。

昭恵氏は首相主催の「桜を見る会」にも同様に、「首相の公務の遂行を補助する一環」（政府答弁書）として出席した。昭恵氏は森友学園問題をめぐっても、学園が開校を目指した小学校の名誉校長に就いていた。安倍首相は2017年の国会で「私や妻が関与していたら、首相も国会議員もやめる」と答弁していた。

菅氏は記者団から続けて、桜を見る会や森友学園の問題について、昭恵氏が安倍首相辞任に合わせて直接説明する機会を設けないのかと問われた。菅氏は「それは考えていません」と否定した。



安倍晋三首相（中央左）、昭恵夫人（同右）と記念撮影をする「桜を見る会」の参加者=2019年4月13日午前10時15分、東京都新宿区、藤原伸雄撮影

4日15:25

菅氏は緊張？ 山本一太・群馬知事と面会
ここから続き

菅義偉官房長官が山本一太群馬県知事（元自民党参院議員）と首相官邸で面会した。山本氏は面会后、「知事として（総裁選を）全力でサポートさせていただきますと話した」と記者団に述べた。山本氏によると、菅氏は緊張した様子だったという。

山本氏は菅氏を支持する理由として「知事の立場からすると、菅長官にやっていただくことが最も国と地方の連携の面でやりやすい。この1年間、官邸に助けてもらって何度も窮地を救われている」と語った。

群馬県内では今後、党員による予備選挙が行われる予定。山本氏は「小淵優子県連会長にも（菅氏支持で）お願いをしてきた。今日か明日中に自民党県議には全員電話して、知事の立場から応援してほしいとお願いをしようと思っている」と話した。（菅原晋）

4日14:00

立憲・枝野氏も立候補表明 合流新党代表選

立憲民主、国民民主両党の合流新党の代表選（7日告示、10日投開票）をめぐり、立憲の枝野幸男代表（56）も記者会見で立候補を表明した。「現政権に代わりうる選択肢となり、新たな政治の流れを作っていく」と強調。党名には「立憲民主党」を掲げた。

午前には国民の泉健太政調会長（46）も立候補を表明している。



立憲民主、国民民主両党の合流新党の代表選へ

の立候補を表明する立憲民主党の枝野幸男代表=2020年9月4日午後1時59分、東京・永田町、諫山卓弥撮影

4日13:15

「信頼の政治をつくる」石破氏が政策発表

自民党の石破茂元幹事長は4日、国会内で記者会見し、総裁選に向けた政策を発表した。タイトルには「納得と共感」を掲げ、「国民がこの政府なら力を貸そう、一緒にやろうと思ってもらえる信頼の政治をつくる」と明記した。

初代の地方創生担当相として石破氏の思い入れの強い地方創生では、「東京一極集中是正担当大臣」（仮称）を置いて、地域分散、内需主導型の経済を目指す」と主張。石破氏は「大臣のもとに一元化して国の仕組みを変える。単なる地方創生ではない」と強調した。

経済政策では「令和新時代のポストアベノミクスへの展開」とし、安倍政権の金融・財政政策の骨格は維持しつつ、低所得者や子育て世代への財政支援の拡充などを掲げた。

4日11:25

菅氏「解散は新しい内閣の話」

菅義偉官房長官は4日午前の閣議後会見で、新型コロナウイルスの新規感染者数が緩やかに減少している現在の感染状況であれば「解散総選挙は可能と考えるのか」と問われ、「解散については新しい内閣の話だと思う」と答えた。

菅氏は3日に出演した民放の報道番組で、総裁選後に新首相が衆院を解散し、総選挙で速やかに国民の信を問う必要性について「状況次第だと思う」と述べている。現在のコロナ禍を指摘した上で、「対策をしっかりと欲しいというのが国民の声だ。収束できるかどうかだろう」とも語っていた。

4日10:50

麻生氏「継続は筋として正しい」 菅氏支持を説明

麻生太郎財務相は4日の閣議後の記者会見で、次期政権に求める経済政策について問われ、「経済再生と財政再建に引き続き取り組んで両立をはかることは、次の政権にも必要なことだと思っている」と述べた。

麻生氏は、任期途中の首相辞任による自民党総裁選であるとして、「今の内閣でやってきたことを継続していくのは筋として正しいと思う。政策の継続を言っていただくのは、候補者として我々が推薦した大きな理由の一つだ」と、菅義偉官房長官を支持する理由を改めて説明した。



閣議に臨む麻生太郎副総理兼財務相=2020年9月4日午前10時2分、首相官邸、恵原弘太郎撮影

4日10:45

野党の合流新党代表選では国民・泉氏が出馬表明

立憲民主、国民民主両党の合流新党の代表選（7日告示、10日投票）をめぐり、国民の泉健太政調会長（46）が4日、国会内で会見し立候補表明した。「提案型の野党第1党を目指す」と意気込みを語った。コロナ収束までの消費税の凍結（財源は国債）などを訴える。

泉氏は「（安倍）長期政権を許してきた理由は野党にある。実力が備わった野党でないといけない」と述べ、対案を掲げて政権担当能力を示し、与党に対抗する考えを語った。合流新党は代表選と同時に党名も投票で決める。泉氏は「民主党」を推すと明らかにした。



立憲民主、国民民主両党の合流新党の代表選への立候補を表明する国民民主の泉健太政調会長=2020年9月4日午前10時45分、東京・永田町、北村玲奈撮影

4日10:30

公明・斉藤幹事長「解散は行うべきではない」

公明党の斉藤鉄夫幹事長は4日午前の記者会見で、自民党総裁選後に選出される新首相が早期に衆院解散・総選挙を行うことに、否定的な考えを示した。「感染拡大が収束しつつある状況ではない」として「解散・総選挙は行うべきではない」との考え方は全く変わっていない」と述べた。

4日09:20

石破氏、きょうは散髪 「日本の政治」整えたいのは…

3日に歯科を受診後、「日本の虫歯は」と記者に問われ、「放っておくと後で大変なことになる」と語った自民党の石破茂元幹事長。この日は国会内の理髪店で髪を整えた。直前に記者団から「日本の政治のどこを整えたいか」と問われ、「みんなが納得するってこと。コロナ対策でも、自分たちも政府に協力して、政府も国民をお助けして、一緒にやろうという共感を整えたい」。



散髪する石破茂元幹事長=2020年9月4日午前、国会、松山尚幹撮影

石破氏はこれに先立ち、日本テレビの番組に出演。朝日新聞社の世論調査で「次の首相にふさわしい」のは、菅義偉官房長官（38%）が石破氏（25%）を上回ったことについて問われた。石破氏は「河野（太郎）さんとかを支持していた方が（菅氏に）乗ったのかもしれないし。勝てる人に応援しようって心理が働くことがある」。その上で「私を支持してくださる方ってそれだけの数がおられる。私の票数が減っちゃったかという、

そうでもない」などと語った。

3日18:10

菅氏、衆院解散は「状況次第」

菅官房長官はフジテレビの番組で、総裁選後に新首相が衆院を解散し、総選挙で速やかに国民の信を問う必要性について問われ、「状況次第だと思う」と述べた。

菅氏は現在のコロナ禍を指摘した上で、「対策をしっかりして欲しいというのが国民の声だ。収束できるかどうかだろう」と話した。また、「コロナ禍の中で国民が何をしてほしいか、客観的に考えながらやるべきだろう」とも語った。

3日15:40

岸田氏と菅氏、日本の「虫歯」は…

自民党の石破茂元幹事長が歯科を受診した後、同じく総裁選に立候補表明している岸田文雄政調会長は、日本歯科大学付属病院（東京都千代田区）を訪れた。新型コロナウイルスの感染対策に取り組んだ診察室を視察し、患者減で経営が圧迫されている現状などを聞き取った。

岸田氏も石破氏と同様、記者団から「日本の虫歯はどこにあるのか」と問われた。岸田氏は「経済では格差問題や新しい成長のエンジン、社会保障制度の持続可能性。地方の活性化では最新の技術を使った地方創生。外交では保護主義や自国第一主義といった分断の問題に、日本がどう対応していくかだ」と課題を列挙した。

その後、菅義偉官房長官も記者会見で「日本の虫歯は」と問われると、「私の立場でコメントするような問題ではない」と笑いながら語った。



笑顔で質問者を指名する菅義偉官房長官=2020年9月3日午後4時23分、首相官邸、恵原弘太郎撮影

3日15:25

石破氏が事務所開き「本当にさわやか」

「本当にさわやか、晴れやか。そういう気持ちですね」。自民党の石破茂・元幹事長は総裁選に向け、国会近くのホテルで選挙対策本部の「事務所開き」を終え、記者団に語った。

石破氏は「次の時代のために意義ある戦いにしたい。自民党どうあるべきか、国がどうあるべきか。自分の思っていることを全身全霊で訴えたい」と力を込めた。

選対本部長は石破派会長代行の山本有二・元農林水産相で、石破氏は中谷元・元防衛相や村上誠一郎・元行革相らの推薦を得ているという。



自民党総裁選の事務所開きを終え、記者の質問に答える石破茂元幹事長=2020年9月3日午後3時24分、東

京都千代田区、諫山卓弥撮影

3日10:00

石破氏、日本の「虫歯」は…

自民党総裁選に立候補を表明している石破茂元幹事長は国会内の診療所で、歯科の診察を受けた。定期的に週一回、受診しているという。その後、記者に「数少ない息抜きの場合」と語った。

記者から「日本の虫歯はどこにあるのか」と問われると、「定期的にきちんとみていかないと、放っておくと後で大変なことになる」と語った。

2日23:10

菅氏がテレビを「ハシゴ」 「派閥政治復活」の批判に反論

菅義偉官房長官は記者会見で自民党総裁選への立候補を表明した後、テレビ番組を「ハシゴ」した。

日本テレビの番組では、党内5派閥の支持を受けることについて「派閥政治の復活」との批判があると指摘を受けた。菅氏はこれに対し「そんなことはない。私自身、派閥に入っていないで自由なことを言ってきた中で、みなさんにご支持をいただける」と反論した。総裁選で議員・党友投票が実施されないことについても「緊急事態の場合はこういう方法がある。政党だから、政治空白は絶対に避けなければならない」と語った。

一方、森友学園の公文書改ざん問題を再調査するかも問われたが、菅氏は「考えていない」と否定した。

これに先立って出演したNHKの番組では、官邸主導による官僚の「付度（そんたく）」など功罪について問われた。菅氏は「一つの省庁で物事を決められる時代ではなくなってきている」と述べた上で「官邸主導というよりも、まさに政治主導で進めていかなければならない。そうしたことが数多くある」と語った。

2日18:10

安倍首相、菅氏表明について語らず

安倍晋三首相は2日夕、公務を終え、首相官邸を後にした。記者団が、菅義偉官房長官が自民党総裁選への立候補を正式に表明したことについて取材を求めたが応じず、記者の問いには首相は左手を挙げ、「お疲れさまです」とだけ答えた。

2日17:50

麻生氏「主導権、争っていない」 3派が会見

菅義偉官房長官が自民党総裁選への立候補を正式に表明したのを受け、菅氏を支持する細田、麻生、竹下の3派閥の領袖（りょうしゅう）が記者会見を開いた。二階派と石原派も菅氏を支持するが、3大派閥のみの会見となった。国会議員は「菅氏支持」で雪崩を打っており、菅政権の誕生を見据えた派閥の主導権争いが表面化した格好だ。

安倍晋三首相の盟友で麻生派（54人）会長の麻生太郎副総理兼財務相は「（安倍首相の）これまで進んだ道と全然違うベクトルに話が進むのはいかがなものか。これだけの支持がある政策を継続していただければいいのではないかと語った。

記者団から、立候補表明した岸田文雄政調会長も安倍首相

の路線を継承すると指摘されると「政調会長、外務大臣もして、よく分かっておられるのは間違いない」と述べた上で「危機管理のコロナっていうものに対する対応は、（国民が）一番関心がある」「非常時だということを考えた時に、菅候補のほうが優れている」と語った。

安倍首相の出身母体で最大派閥・細田派（98人）の会長・細田博之元幹事長、竹下派（54人）の会長・竹下亘元総務会長も出席した。

二階派と石原派が不在の会見となったことについて、麻生氏は記者団から「主導権争いとの見方もある」と問われると、「主導権なんか争っていない」と語った。



自民党総裁選で候補者の菅義偉官房長官を

推薦した会見をする（左から）麻生太郎財務相、細田博之元幹事長、竹下亘元総務会長=2020年9月2日午後6時8分、国会内、山本裕之撮影

2日17:30

石破氏、菅氏会見「心に迫る語り口」

自民党総裁選への立候補を表明している石破茂元幹事長は、菅義偉官房長官の記者会見のテレビ中継を見た後、「何のために政治家になったか、地方を大切にしたい。非常に心に迫る語り口でおっしゃった」と記者団に感想を語った。

石破氏はまた、「（菅氏は）安倍政権を継承することに相当重点を置いていた。何を換えなきゃいけないか、私は私なりの考えを持っている。岸田（文雄）さんは岸田さんなりの考えをお持ちだろう」とも述べ、総裁選での論戦の機会の必要性を強調した。



記者団の取材に応じる自民党の石破茂元幹事長=2020年9月2日午後、国会内、松山尚幹撮影

2日17:00

「政権を支えた者として決意」菅氏が出馬会見

菅義偉官房長官が国会内で記者会見を開き、自民党総裁選への立候補を正式に表明した。「（安倍晋三）総理の無念な思いを推察している。政治の空白は決して許されないと強調。「すべての国民のみなさんが安心できる生活を一日も早く取り戻すため、安倍政権を支えた者として、今なすべきことは何か熟慮してきた。私は総裁選に立候補する決意をした」と説明した。「（安倍政権の）取り組みをしっかりと継承し、さらに前に進めるために、私の持てる力全てを尽くす覚悟だ」とも語った。

2日16:05

菅氏がネクタイ着用 理由は「これから出馬会見」

自民党総裁選への立候補表明の会見を1時間後に控えた菅義偉官房長官は2日午後の定例記者会見を、ネクタイを着用

して臨んだ。菅氏は、環境省がネクタイなしの軽装などを呼びかける「クールビズ」が始まった5月以降、会見はほぼネクタイなしで行い、2日午前の会見もネクタイを着用していなかった。

記者からネクタイを着用した理由について問われると、「これから（総裁選）出馬に向けての会見をするので、ネクタイをした方がいいと何人から言われた。素直に従った」と満面の笑みで語った。

菅氏は午後5時から衆院第2議員会館で記者会見を開き、総裁選への立候補を正式に表明する。そのためもあってか、2日午後の記者会見は約5分で終わった。

2日16:00

16日に新首相選出、組閣も 自民が野党に伝達

自民党の森山裕・国会対策委員長は立憲民主党の安住淳国対委員長と会談し、安倍晋三首相の辞意表明を受け、16日に臨時国会を召集し、当日のうちに後任の首相を選出する方針を伝えた。森山氏は会談後、「おそらく16日に組閣されるだろう」と記者団に述べた。

会期は18日までの3日間。首相指名のほかは特別委員会の設置などにとどめ、質疑などは行われない見通し。

安住氏は森山氏に対し、19日以降、できるだけ早く臨時国会を改めて開き、新内閣の国会論戦を始めるよう求めた。森山氏は会談後、本格的な国会論戦について「10月末に向けてその作業が始まるのではないかと」の見通しを示した。

2日11:50

安倍首相、細田派「まとまってくれた」 河村氏に語る

安倍晋三首相が官邸で、二階派の河村建夫元官房長官と会談した。河村氏によると、首相は出身母体・細田派の自民党総裁選への対応について、「細田（博之）会長のもつと、うまくまとまってくれた」と語ったという。会談後、記者団に明らかにした。最大派閥の細田派は菅義偉官房長官を支持することで固まっている。



首相官邸に入る安倍晋三首相=2020年9月2日午前9時50分、恵原弘太郎撮影

2日11:35

茂木氏「次はチャレンジ」 今回立候補せず

自民党竹下派で若手を中心に擁立を求める声があがっていた会長代行の茂木敏充外相が「今回は全体の状況を考えたい。必ずみんなの思いを受け止めて、次はしっかりチャレンジ、対応する」と述べ、立候補しない考えを示した。同派の総会后、記者団に語った。同派は総会で、菅義偉官房長官を支持する方針を決めた。

2日11:30
菅氏、森友加計・桜「調査行って、国会で説明している」

菅義偉官房長官は2日午前の定例会見で、森友・加計（かけ）学園問題や「桜を見る会」など、権力の私物化とも指摘された問題の総括を問われ、「それぞれ必要な調査などを行って、国会の場などで繰り返し説明させて頂いている」と述べた。その上で、「安倍政権の中で様々な指摘、批判を頂いているが、行政に関する国民の信頼が揺らぐことのないよう、国民の声に謙虚に耳を傾けながら取り組んでいかなければならない」と話した。

菅氏は会見で「今日、私も総裁選に向けての会見を行いたい」と話し、同日夕、自民党総裁選への立候補を正式に表明する。1日に立候補を表明した石破茂元幹事長は、一連の問題について「何がどう問題であるかの解明をまず第一にやり、必要ならば当然やる」と指摘。岸田文雄政調会長も立候補を表明した記者会見で問われ、「実際どうだったかについて話を聞くことはしなければならぬのではないかと」述べている。

2日09:50

首相不在の予算委開催「非常に遺憾だ」立憲・大串氏

安倍晋三首相が辞任表明した中、国会では衆院予算委員会で新型コロナウイルス対応に関する閉会中審査が開かれている。

立憲民主党の大串博志氏は「総理も出席した予算委員会は6月の第2次補正予算案を審議して以降、行われていない。第2波とも言わざるを得ない新型コロナの感染拡大があった。私たちは集中審議を求めていたがかなわなかった。非常に遺憾だ」と指摘。さらに「総理が辞任（表明）された中、絶対に（政治の）空白は生んではならない。実際にはどうか」と政府側にただした。

西村康稔経済再生相が「定期的に安倍総理、菅義偉官房長官に報告し、対応している。しっかり取り組んでいる」と反論すると、大串氏は「ポスト安倍」にも照準を合わせた。「菅官房長官は次期総裁候補と言われているが、根拠もなく、Go To トラベルキャンペーンがなかったら大変なことになったと発言したと言わざるを得ない。旅行業、観光業、運輸業を直接救う予算の使い方にしていきたい」と注文をつけた。

2日09:45

立憲・安住氏、自民に「ハマコー先生のような元気さはない」

立憲民主党の安住淳国対委員長は、自民党総裁に選ばれる流れが強まっている菅義偉官房長官に対し「引き続き公文書の問題、桜を見る会、森友・加計問題、コロナウイルスに関係する政策決定も、（安倍晋三首相を）後継継承する人だからこそ、質疑もしっかりやっていきたい」と記者団に語った。「むしろ安倍内閣で、総理ではない新しい方になることで、実態解明が進むのではないかと期待している」とも続けた。

安住氏はまた、自民党が党員・党友投票を省く「簡易型」の総裁選とし、5派閥で菅氏を推していることに対し「1970年代に戻ったのかと思うような派閥政治だ。若い人たちがもっと元気よくやるのかなと思った」と指摘。「浜田幸一先生のような元気さは全くない」と続け、「ハマコー」と呼ばれて、79年の自民党の派閥抗争「40日抗争」で党本部でバリケードを撤

去する姿が報じられた故・浜田幸一元衆院議員と対比した。



自民党両院議員総会場前に福田派の「自民党をよくする会」が築いたバリケードを撤去する浜田幸一・衆議院議員=1979年11月

1日17:00

石破氏、森友・加計と桜の再調査「必要ならば当然やる」

自民党の石破茂元幹事長は記者会見で、首相になった場合に森友・加計学園問題や「桜を見る会」の問題を再調査するかと問われた。「何がどういふ問題であるのかの解明をまず第一にやり、必要ならば当然やる」と述べた。

森友問題などの安倍政権の疑惑をめぐる、石破氏は「政権の中にいなかったのが事実関係を完全に承知していない」と前置きした上で、「仮に政権の中に入ったとすれば、検証しなければいけないことがあるとすれば、検証していかなければならない」と指摘。「政治が『何かごまかしている』『ウソを言っている』という思いが(国民の間に)ある以上、納得にも共感にもならない」と強調した。



自民党総裁選への立候補を表明する石破茂元幹事長=2020年9月1日午後4時30分、東京・永田町、林敏行撮影

1日17:00

河野太郎氏「出馬しない」

河野太郎防衛相が自民党総裁選について「仲間といろいろ相談をして、今回は出馬をしないことにした」と述べ、立候補しない考えを示した。所属する同党麻生派の総会後、記者団に語った。「今後のことは麻生(太郎)会長としっかりご相談していきたい」とも述べた。

1日16:30

石破氏が立候補表明 「民主主義、正しく実現」

自民党の石破茂元幹事長が総裁選に立候補することを正式に表明した。自身が率いる石破派の会合後、記者会見で「民主主義が正しく実現する自由民主党でありたい。そういう自由民主党をつくっていくために私は最大限の努力をする」と意欲を語った。

1日16:15

菅氏、アベノミクス「大きな成果」

菅義偉官房長官は記者会見で、安倍政権の経済政策「アベノミクス」の成果について問われた。株価の上昇や就業者数の増加、地方の地価の上昇などを指摘し、「バブル崩壊後、最良の状態まで持ってくることができた。大きな成果だと思う」と述べた。

べた。

足元では新型コロナウイルスの感染拡大により、今年4~6月期の実質国内総生産(GDP)は年率換算で27・8%減と戦後最大の落ち込みを記録しており、「この危機を何とか乗り越えることが極めて重要だ」と話した。

次期政権でもアベノミクスの柱だった大規模な金融緩和や積極的な財政施策を維持すべきかも問われたが、菅氏は「まずコロナに対処しつつ、経済活動を回復をさせていくことが最重要課題だ。そのため必要な施策を講じていく」と述べるにとどめた。

1日15:00

立憲・枝野氏「総選挙で政治状況を転換」

立憲民主党の枝野幸男代表は国会内で開いた党常任幹事会で、「7年8カ月の安倍政権の退陣で日本の政治は新しいフェーズに入った」とあいさつ。国民民主党などとの合流新党をめぐる10日に代表選出、15日に結党大会との日程が固まったことを踏まえ、「自民党総裁が選ばれるプロセスと同時期になったのも、ある意味で必然性があると思う。良い形で新党をスタートさせ、早ければ10月25日といわれている総選挙でしっかりと政治状況を転換させよう」と呼びかけた。

枝野氏は安倍晋三首相に辞任表明をめぐる「本来なら国会論戦、選挙で退陣に追い込みたかった。実現できなかったのは大変残念だ」とも語った。

1日14:30

岸田氏が立候補表明

自民党の岸田文雄政調会長が総裁選への立候補を正式に表明した。自身が率いる岸田派の会合で「国民のため、国家のため、私の全てをかけて取り組みたい」と語った。



自民党総裁選に向け、派閥の総会で氣勢を上げる岸田文雄政調会長(中央)ら=2020年9月1日午後2時40分、東京・永田町、遠藤啓生撮影

1日12:55

野田聖子氏、簡易総裁選「非常に残念」立候補せず

自民党の野田聖子元総務相が「今回の総裁選への出馬はいたしません」と記者団に語った。直前に開かれた党総務会で、投票権を国会議員と都道府県連の代表者に限る「簡易総裁選」とすることが決まったのに対し、「開かれた総裁選挙を行うことが自由民主党にとって大切なことだということで行動してきた。今日こういう形(簡易総裁選)になったので、非常に残念なことだ」と語った。



自民党総裁選への不出馬を表明する野田聖子

元総務相=2020年9月1日午後0時53分、東京・永田町

1日12:50

下村氏、立候補せず

自民党細田派の下村博文選挙対策委員長が記者団に「(派として)一致結束して菅(義偉・官房)長官を総裁選挙の候補者として推薦することが決定したので、私もそれに従って一緒に行動したい」。自身は総裁選に立候補しない考えを示した。

1日12:40

「簡易」に決定

自民党は総務会で、安倍晋三首相(党総裁)の後継を決める総裁選について、投票権を国会議員と都道府県連の代表者に限る「簡易総裁選」とすることを決めた。従来の総裁選と比べて地方の意見が反映されにくいことから反発もあったため、各都道府県連に予備選挙を要請する。総裁選の選挙管理委員会は2日に開催する。



自民党総務会に臨む岸田文雄政調会長

(右)と二階俊博幹事長=2020年9月1日午前11時3分、東京・永田町、杉本康弘撮影

1日11:50

西村氏は立候補せず

政府の新型コロナウイルス対策を担う西村康稔経済再生相は1日、安倍晋三首相の後任を選ぶ自民党総裁選に立候補しない考えを表明した。閣議後会見で総裁選への立候補の意思を問われ、「仲間とも相談してきたが、私自身が今回、立候補することはない。何よりも、目下のコロナ対策に空白をつくるわけにはいかない。与えられた職責をまずは全うしていきたい」と語った。



閣議後会見で話す西村康稔経済再生相。自

民党総裁選に立候補しないことを表明した=2020年9月1日午前11時51分、東京都千代田区

1日10:50

茂木氏「結論、24時間以内に」

自民党竹下派会長代行の茂木敏充外相は閣議後の記者会見で、総裁選への自身の対応について「早急に結論を出したいと思っている。24時間以内には出す」と述べた。同派若手は8月31日、茂木氏に立候補を求める方針を確認している。

茂木氏は会見で「私自身も仲間のメンバーとよく相談をしている。さらにはグループ以外、自民党の中の様々な方々とも連日のようにやりとりは行っている」とも語った。

1日10:40

二階氏、簡易総裁選を表明

自民党の二階俊博幹事長は選出方法を総務会で決める前の

記者会見で「政治空白は一刻も許されない。コロナウイルスの感染で国民が大変な不安に陥っているときに、積極的な対応を早急に講じていかなければならない」と述べた。全国の党員・党友投票を省略し、国会議員と都道府県連の代表で新総裁を決める「簡易総裁選」を選択する考えを明らかにした。

1日10:20

菅氏「コメント控えたい」

菅義偉官房長官が定例の記者会見で、自身の立候補が取りざたされる自民党総裁選について問われた。「この場合は政府としての見解を説明する場だ。私の総裁選についてのコメントは控えたい」と述べるにとどめた。一方、新政権の課題については「新型コロナウイルス対策が目目の前の課題で、経済活動の両立を図っていくことが大事だ」と語った。

党員投票を求める党内の声の高まりについても問われたが、「ここは政府の見解を申し上げる場で、一国会議員としての見解を申し上げる場ではない」と繰り返した。



会見で自民党総裁選についての質問に答え

る菅義偉官房長官=2020年9月1日午前10時28分、首相官邸、恵原弘太郎撮影

8月30日

菅氏が立候補の意向「空気生まれつつある」

菅義偉官房長官が自民党総裁選に立候補する意向を固めた。

党内では菅氏の立候補への期待が広がる。二階派の河村建夫元官房長官は同派幹部の会合後、「そういう(菅氏を推す)空気が生まれてきつつある」と記者団に述べ、派として菅氏を支持する考えを示した。



会見にのぞむ菅義偉官房長官=2020年8月

31日午前11時28分、首相官邸、遠藤啓生撮影

8月28日

安倍首相が辞任表明「ポスト安倍」候補が意欲

安倍晋三首相が夕方の記者会見で、持病の潰瘍(かいよう)性大腸炎の再発を理由に、辞任する意向を表明。「国民の負託に自信をもって応えられる状態ではなくなった以上、総理大臣の地位にあり続けるべきではない」と述べた。新首相選出までの間は職務を続ける。

首相会見を受け、「ポスト安倍」と呼ばれる候補たちが自民党総裁選に出る意欲を示した。安倍首相からの「禅譲」路線とされてきた岸田文雄政調会長は記者団に「今まで通り、『次』を担うべくしっかり努力をしていく」。安倍首相と過去2回の総裁選で対決した石破茂元幹事長も記者団に「(立候補に必要な)20人の推薦があったとすれば、やらねばならないということではないか」と語った。



辞任の意向を表明した会見で質問に答える安倍晋三首相=2020年8月28日午後5時53分、首相官邸、藤原伸雄撮影



1時間後の出馬会見について質問を受け笑顔を見せる菅義偉官房長官。ネクタイを着用して会見に臨んだ=2020年9月2日午後4時6分、首相官邸、恵原弘太郎撮影

